

第2号様式の6 (第11条の4の11関係)

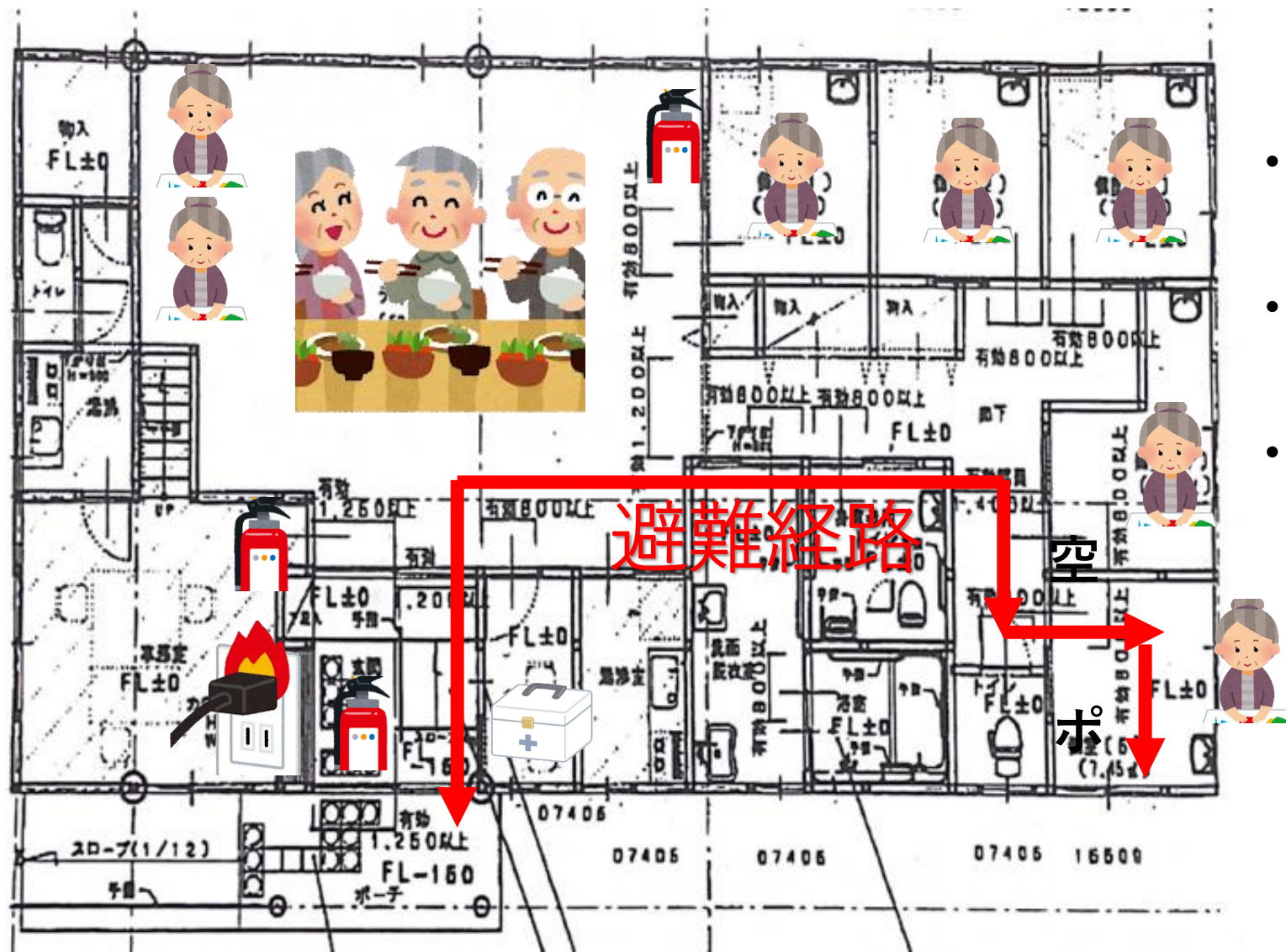
自衛消防訓練実施結果記録書					
実施日時	令和4年 5月 31日 14時 00分 から 15時 00分 まで				
実施場所	小規模多機能型居宅介護事業所 すずかぜ				
実施範囲	全体・部分 (棟階)				
訓練想定 (該当する□にチェックをし、具体的な内容を記載する。)	<input checked="" type="checkbox"/> 火災 ・ <input type="checkbox"/> 地震 ・ <input type="checkbox"/> その他の災害 () 具体的な内容： 1F 休憩室南西角にあるマルチタップに溜まったホコリが原因での出火、壁1枚隔てた玄関側(下駄箱側)にも火の手が迫っている事を想定。 避難誘導訓練・通報訓練後、ダミーを使ったCPR訓練、水消火器を使った消火訓練を実施。				
訓練項目等 (該当する□にチェックをし、参加人員を記入する。)	<input checked="" type="checkbox"/> 総合訓練		名		
	個別訓練	<input checked="" type="checkbox"/> 消火訓練	9名	<input checked="" type="checkbox"/> 通報訓練	1名
		<input checked="" type="checkbox"/> 避難訓練	22名		
<input checked="" type="checkbox"/> その他 (ダミーを使用したCPR訓練)		10名			
訓練参加者内訳	従業者・お客様等(全員・一部) 22名 (うちパート・アルバイト 名) 参加者内訳：自衛消防隊員 1名 自衛消防活動中核要員 名 (うち 本部中核要員 名 (うち 防災センター要員 名) 地区中核要員 名)				
訓練指導者	職 副管理者 氏名 山口 幸子				
結果への意見	全体の評価	全員が真剣に取り組み、概ねスムーズに行う事が出来た。 14時に火災報知器発動、避難後安否確認報告までの所要時間5分であった。			
	推奨事項	避難誘導する際は出火室の扉を閉める、誘導完了後の居室扉を閉めるなどの対応が出来ていた。			
	反省点	避難経路の把握が出来ておらず、出火元に近いお客様の避難誘導が最後になったので、避難経路と出火時の二方向避難について普段から確認・把握するよう指導した。			
記録作成者	職 副管理者 氏名 山口 幸子				

備考1 総合訓練とは、火災の覚知又は発見から消防隊到着までの初期消火、通報連絡、避難誘導、消防隊への情報提供などの一連の自衛消防活動に係る訓練をいう。

2 訓練の事前計画や実施記録等を別に作成した場合は、添付しておくこと。

3 自衛消防訓練実施結果記録書は、3年間保存すること。

5月31日避難訓練マップ



- 体調不良があるお客様は、原則参加しません。
- 介助が必要なお客様は、ケガをしないように注意する。
- 避難経路が火災場所に近い為スロープ側の出口を利用する。